

行政評価事務事業一覧

【まちづくりの目標5_人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ】

施策 5-8_多様な主体による協働の推進

基本計画		事業番号	細事業名称
5-08-01	協働のまちづくりを推進する体制づくり	02435_01	公共施設愛護活動支援事業
5-08-01	協働のまちづくりを推進する体制づくり	02608_01	ボランティア活動推進事業
5-08-02	市民のまちづくり活動への支援	02500_01	花いっぱいのもちづくり事業
5-08-02	市民のまちづくり活動への支援	10429_02	新しい公民館創造プロジェクト事業

令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	02435_01		
事業名(行目名称)		公共施設愛護活動支援事業費	細事業名	公共施設愛護活動支援事業			
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ	施策	多様な主体による協働の推進			
	基本計画	協働のまちづくりを推進する体制づくり	担当課	地域コミュニティ課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民、団体、事業者		数値	4,740人		
	手段(どうやって)	積極的な制度の啓発を行い、公共施設愛護事業実施要綱に基づく合意書締結、活動支援を行っている。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	多くの市民が自発的に公共施設の清掃・美化活動に取組み、まちの美化が推進されるとともに、市民と行政が協働して公共施設の愛護に取り組むまちづくりを目指す。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		751	787	787	763	○需用費 787千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	751	787	787	763		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
活動参加者数		目標値	5000	5050	5050	5050	
		実績	4706	4711	4765	4765	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
令和6年度に入り、2団体が増加し、計114件となっている。引き続き公共施設の美化活動を推進していく必要がある。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
ボランティア清掃活動者への支援を継続するとともに、本制度や活動状況について広く周知を図ることで、参加者のさらなる増加につなげていき、市民とともに快適で美しいまちづくりを進めていく。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和6年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
今年度、活動団体が2団体増加し、成果指標としている活動参加者数も、僅かだが増加した。引き続き公共施設の美化活動を推進していく必要がある。							

令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2024	02608_01		
事業名(行目名称)		ボランティア活動推進事業費		細事業名	ボランティア活動推進事業			
総合 計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ		施策	多様な主体による協働の推進			
	基本計画	協働のまちづくりを推進する体制づくり		担当課	地域コミュニティ課			
II 事務事業の実施概要								
事務 事業 内容	対象(誰・何を)	市民			数値	10,000人		
	手段(どうやって)	ボランティア活動に参加しやすく、また継続的な活動ができるように、ボランティアに関する情報の集約、発信を行うとともに、ボランティア活動にあかがねポイントを付与し、参加者のインセンティブやモチベーションの維持、強化を図る。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	市民の社会貢献活動の参加促進を図り、地域課題を自らの問題として主体的に行動し、解決していく社会の実現と人材の育成を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		497	1,025	1,025	670	○需用費 97千円 ○役務費 57千円 ○使用料及び賃借料 671千円 ○負担金補助及び交付金 200千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0				
	その他	371	300	300	193			
	一般財源	126	725	725	477			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度	
付与ポイント数			目標値	200000	500000	200000	200000	0
			実績	29100	54700	29300	64800	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや低い	有効性	やや低い	効率性	やや低い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	手段を改善する					
令和3年度からボランティアポイント制度を開始したが、新しくボランティアを行うインセンティブとしての効果は薄かった。また、市内には、ボランティア市民活動センター(社会福祉協議会)もあり、ボランティアに関する窓口が重複している。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	縮小					
ボランティアポイント制度は令和6年度をもって廃止する。今後は、ボランティアに関する窓口をボランティア市民活動センターに一本化し、よりわかりやすくボランティアに関わることが出来る体制の構築を図る。また、市民活動団体に対しては引き続き市民活動サロンにおいて、場の提供や機器の貸し出しを行っていく。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和6年度)	C: 事業規模・内容・実施主体の見直し検討					
ボランティアポイント付与については、以前から活動していた見守り活動団体への付与が大部分であったため、令和6年度末で廃止した。まちづくりサロンのあり方などを検討していく必要がある。								

令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2024	02500_01	
事業名(行目名称)		花いっぱいのもちづくり事業費	細事業名	花いっぱいのもちづくり事業			
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ	施策	多様な主体による協働の推進			
	基本計画	市民のもちづくり活動への支援	担当課	地域コミュニティ課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内小学校区		数値	18校区		
	手段(どうやって)	自治会や老人会、小中学生などが、地域の主要な道路等にプランターを設置し、水やりや除草等を行い、適正に管理する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	花のある生活は、環境美化に寄与するなど、まちづくりの重要な要素である。花づくりを通して、やさしい心・おもてなしの心を育てるとともに、全市をあげて花いっぱいのもちづくりへの取り組みを進める。また、地域が力を合わせて取り組むことにより、地域の絆の強化を推進する。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		4,246	4,043	4,043	3,336		
財源	県・国支出金	0	0	0	0	○需用費 1,065千円 ○負担金補助及び交付金 2,978千円	
	地方債		0	0			
	その他	700	550	550	780		
	一般財源	3,546	3,493	3,493	2,556		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
実施校区			目標値	3	3	3	3
			実績	3	3	3	3
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや低い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
維持管理に係る地域住民の高齢化により、毎日の水やり等の負担が増加している。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	縮小				
予算削減に伴い、交付金を一律10%カットとする。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
市内3か所(船木・泉川・駅前)との交付金事業や日本郵便(株)との包括的連携協定により、市民、企業、行政が一体となり、新居浜市の美しい町づくりを推進するとともに、地域コミュニティの促進が図ることができた。また、企業版フラワーパートナー制度では、現在16事業所において花いっぱいのもちづくりを実施しており、今後においても、制度の周知を図っていくとともに積極的な勧誘を行っていききたい。							

令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10429_02		
事業名(行目名称)		地域主導型公民館推進費	細事業名	新しい公民館創造プロジェクト事業			
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ	施策	多様な主体による協働の推進			
	基本計画	市民のまちづくり活動への支援	担当課	社会教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市民		数値	114,886人(R5.3.31現在)		
	手段(どうやって)	地域ごとに実情・課題は様々であるため、“つどう(生活のなかで気軽に人々が集うことができる場)”、“まなぶ(自らの興味関心に基づいてまた社会の要請にこたえるために知識や技術を学ぶための場)”を事業の柱として、学びを活かして地域の課題解決を目指す。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	公民館は、市町村その他一定区域内の住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の鈍化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。(社会教育法第20条)					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		7,020	7,937	7,937	7,833	○委託料 7,937千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
一般財源		7,020	7,937	7,937	7,833		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
各校区で実施した地域教育力向上プロジェクト推進事業への参加者数(人)		目標値	40915	37965	31710	31710	
		実績	20516	30529		35016	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>新型コロナウイルス感染症まん延に伴い、減少してきていた事業への参加者数が、感染拡大前の水準に戻りつつある。引き続き、地域課題解決につながる事業を展開していく。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>予算は現状維持とするが、社会の必要課題が解決できる地域力を、社会教育により向上させるため、事業内容の充実を図り、多世代が集える事業や青年が地域の課題解決に向けて参画できる事業を積極的に実施していく。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>令和6年度は、新たに各校区の地域教育力向上プロジェクト推進事業に「人権・同和教育」「環境学習・活動」「男女共同参画社会推進」など、社会問題をテーマとした講座を盛り込むこととし、学びを深め、今後の地域課題解決の一助とすることができた。また、次年度以降の若者向けの講座の参考とするため、プチモニアンケートを実施した。各種団体、学校、企業などと連携した事業も継続して実施しており、公民館と地域住民が協議しながら、地域課題の解決及び地域住民のニーズを踏まえた事業の企画運営ができた。</p> <p>令和7年度は、事業計画の中に「国際交流」をテーマにした講座やプチモニアンケートの結果を反映させた「若い世代対象」の講座を盛り込み、多世代や多様な人々が公民館に集うきっかけ作りとしていきたい。また、各公民館職員間での情報共有を継続して実施し、事業内容の充実を図りたい。</p>							